

No.162

さい議会だより



さいっこ元気にがんばった保育所運動会（6月29日） ぞう組

6月定例会

「太田村政」4期目スタートの決意は ……6,7 ページ

オフサイトセンター誘致について ……8,9 ページ

大間病院整形外科外来診療の対応 ……10 ページ

シリーズがんばってます 牛滝まだあ～る ……11 ページ

各会計補正予算案を可決

北前船彩紀行「北の夢海道・佐井湊」事業 他

補正予算の内容

会計	補正前	補正額	計	
	23億7456万0千円	1711万8千円	23億9167万8千円	
一般会計				
僕のかわいい グッズが製作 されるよ。	<p>◇北前船彩紀行「北の夢・佐井湊」事業 114万6千円 ※事業運営委託料（会場内音響設備設置、ミニコンサート出演料他）</p> <p>◇あおい環プロジェクト事業 60万9千円 ※雲丹（うんたん）関連グッズ導入デザイン料他</p> <p>◇共同受信施設地上デジタル放送導入事業 49万1千円 ※矢越地区地上デジタル放送難視状況解消のための 共同受信施設設置に係る補助金（国庫補助）</p> <p>◇子ども・子育て支援事業 190万8千円 ※「子ども・子育て支援計画」策定のためのニーズ 調査に係る業務委託料</p> <p>◇外国語指導助手（ALT）活動事業 63万2千円 ※村単独で採用する外国語指導助手の給料を見直し</p> <p>◇学習支援推進事業 224万7千円 ※学力向上を目的に佐井中学校へ学習支援員1名配置</p>			
特別会計	簡易水道	7359万6千円	70万2千円	7429万8千円
	下水道	1億8543万1千円	△236万3千円	1億8306万8千円

平成二十五年第2回定例会は、六月十二日から十四日までの三日間の会期で行われました。村長から報告一件、承認六件、補正予算案三件、条例案六件、計十六件が提出され、それぞれ全会一致で原案どおり決しました。

水道技術管理者資格取得に係る経費の増額
○佐井村新型インフルエンザ等対策本部設置条例
政府対策本部が設置されたときは直ちに市町村対策本部を設置し、対策を講じるためのもの。
○佐井村子ども・子育て会議条例
子育て支援計画を策定するため、十五名程度の委員を選任し、本年度保護者へのニーズ調査を実施するもの。

○平成二十四年度佐井村
一般会計繰越明許費繰越
計算書

平成二十四年度一般会
計予算に計上の次の三事
業について、年度内の支出
が見込めないことから繰
越明許費とし報告する。

- ・佐井地区（佐井漁場）水
産生産基盤整備事業
- ・側溝整備事業
- ・橋梁長寿命化事業

○平成二十五年度佐井村
簡易水道事業特別会計補
正予算（第一号）

審議した主な議案

チャンスを活かすべき わかめ養殖取組みは

竹内修委員

本年二月、漁協との懇談会の中で、わかめ養殖について説明を受けたが、その後わかめ養殖の経緯は。

漁協に規模の拡大を要請している

参事・産業建設課長

東日本大震災による養殖わかめの不足により、青森中央水産株式会社と理研食品株式会社から、村と漁業者に対し、養殖わかめの増産を申し入れされたが、漁業者からは採算性や資材等の購入費が高め、拡大は難しいことが理事会で報告された。村は漁協に対して、水産振興基金の果実運用事業により、規模の拡大を申し入れている。更には、漁協に採算面を含め業者と協議して施策を講じて欲しいと考えている。

今が最後のチャンス

竹内修委員

あおい環プロジェクトで、わかめ養殖に対しても機運がわいてきている。普段から基幹産業は漁業だと言っているし、このチャンスを活かして、プロジェクトを作り、漁協と漁業者が懇談する場を設けるべき。

基盤となる体制作りが必要

竹内修委員

高齢者も担い手となる若い人達も一緒に取り組んで、収入の向上を目指してもらいたい。そのためには水産振興基金を取り崩しても、村で援助する体制を整え、わかめ養殖の基盤を作つてもらいたい。

漁業者のためにもやるべき

漁協の意欲と指導力を求める

村長

組合長等にも、この機会を逃さず、漁業者のためにもやるべきと話しているが、漁業者の高齢化やグループ行政で出来る範囲内で応援したい。漁協にはやる意欲、指導力を大いに發揮して欲しいと思つている。

若い人達が結束して出来るような方向に、漁協や村が後押しするのが一番いいと考える。



福田 弘一さん（35歳）大佐井

Q：漁師の魅力は

A：家族で頑張って収入が得られること。

Q：わかめ養殖について

A：確実に収入が得られ、組合などの支援あれば新規に取り組む人も、高齢漁業者もやろうという気持ちになるのでは。

Q：将来の夢は

A：漁があり、家族が元気で普通の生活ができる普通が一番。

900万円規模の予算 「一過性のイベントにして欲しくない」

北前船彩紀行事業

坂井委員

七月に行われる北前船彩紀行事業費は約九百万円規模で、今年最大のイベント

だと思うが、事業終了後、引き続き北前船の関係で、佐井村をピースアールするよう考えは。

**佐井村を全国に
知つて欲しい**

坂井委員

三日間にわたってのイベントで、歴史的にも関わりのある事業なので、のちに後悔の残らないようにして欲しい。

**住民総参加で
実行したい**

村長

これを機に佐井村を、県内もとより全國に知れわかつて欲しい思いである。昨日からKDDI系列のケーブルテレビも取材に入って、三上剛太郎生家、うに祭り、村内観光名所などを撮影し、七月から首都圏で放送を予定している。併せて歴史ある北前船を大いに広めていきたい。



佐井港へ入港する北前船「みちのく丸」7月21日



村内外からたくさん的人が港に集まり「みちのく丸」の寄港を歓迎した

全国的に急増する風しん…妊婦対象の予防接種

接種対象者拡充必要では

竹内典和委員

風しん予防接種に二十万円の予算措置をしているが、対象者は。

**接種予定者は
約二十名を試算**

参事・住民福祉課長

妊娠初期の妊婦が風疹に感染すると先天性風疹症候群に罹患する可能性が高く予防接種費用の全額を助成するものである。対象者は、妊娠を予定または希望している女性、妊娠している女性の夫、妊娠している女性の同居家族で特に接種が必要と認められる方で、二十名前後を試算し予算措置した。

感染防止のため対象者拡充必要では

竹内典和委員

感染防止のため、村内の予防接種を受けていない二十歳から四十九歳までの男女五百九十五名についても、対象を拡充したらどうか。

※罹患（りかん）：病気にかかること



妊娠初期の妊婦が風しんに感染すると、赤ちゃんが先天性風疹症候群にかかる可能性が高い



健康で元気な成長を願う親心

村長

希望者があれば対応したい

**希望者があれば
対応したい**

第1回臨時会（6月28日） 国家公務員の給与減額措置に準じて 村長・教育長・職員の給与条例議案 可決

【可決した議案】

○村長の給与の特例に関する条例

給料を現行の三十%減額から三十五%減額に変更

○教育長の給与の特例に関する条例

給料を現行の二十%減額から二十二%減額に変更

○職員の給与の臨時特例に関する条例

給料を現行の二%減額から二・五%減額に変更

東日本大震災を契機として防災・減災事業に積極的に取り組むとともに一層の地域経済の活性化を図ること

が喫緊の課題となっている。このため、地方公共団体において、速やかに国家公務員の給与の減額措置に準じて必要な措置を講ずるよう国から要請があつた。これを受けて平成二十五年七月一日から平成二十六年三月三十一日までの期間減額する。

佐井村の将来は…

不安の村民の声…

今後四年間の具体的な施策は何か

二期十一年間の実績と成果は

村長

「第四次長期総合計画」の着実な推進が使命であり公約である



坂井文明議員

坂井議員

今回の村長選挙は無投票当選であつたため、争点の論戦も全く見えず今後の佐井村はどうなっていくのか、不安だという村民の声も多く聞いている。村長は三期十二年間の実績と成果をどう認識しているか。

住民の評価は厳しいと受け止める

村長

この十二年間を、「ここぞ豊かなむらづくり」を目指し、福祉の向上、産業の活性化、社会基盤整備促進、教育環境の整備・充実、財政の健全化などに取り組んできた。基金がゼロの財政状況、市町村合併の推進によるむづ・下北や、北通り三ヶ町村の合併協議の白紙など、地方自治体を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあった。このため、住民

の要望に十分に応えられる状況ではなく、三期十二年間の住民の評価は厳しいものがあると受け止めている。

また、「佐井村むらづくり基本条例」の制定、「佐井村第四次長期総合計画」により住民参画の村づくりに取り組んでいるところである。

歴代の村長は、それなりに特色のある村政を行ってきている。太田村長は、佐井村をこのようにしたいとどうに認識されているか。

坂井議員

広報さいの五月号の村長のあいさつの中で、「道半ば」という言葉を使っているが、村長は特にどのような施策の事を指して述べていたのか。

強い信念を持った
村政運営が必要

道半ばの施策とは

太田村政らしい
特色は何か

坂井議員

十二年間の太田村政らしい特色というものを本人はどうに認識されているか。

施策は進行途中である

村長

むらづくり基本条例と第四次長期総合計画を策定した。それを一步一歩着実に進めていく途中である。

評価するのは
住民である

村長

私の太田カラーといふもの評価するのはあくまで住民だと思っている。

精一杯頑張る

村長

私も先輩村長に負けないよう精一杯頑張っていかなければならないと思って

6月定例会

今後四年間の施策と公約は何か

坂井議員

今後四年間でどのような施策をして、どのような佐井村を造りあげたいのか、村民に対しての公約は何か。

「第四次長期総合計画」の推進

村長

「第四次長期総合計画」

の基本計画、第一章から第五章に基づき、村づくりの着実な推進を図ることが使命であり、村民に対する公約と考えている。

テーマだけでは伝わらない

住民との対話の行政を目指す

村長

私は住民と接して、生の声を聞いて、行政に生かしていくことが一番の方法だと思っている。

四期目スタートの村長の決意は

坂井議員

四期目のスタートにあつて、村長の決意を伺いたい。

緊張感を持つて住民に理解を求める

村長

緊張感をもつて、常に機会あるごとに自分の施策、また、村の方向性を住民の皆さんにお話しながら、理解と協力を頂くことが、これから私の使命の一つであると考えている。



住民の意見要望を反映させ、より良い行政運営を目指す（行政懇談会）

○佐井村むらづくり基本条例（平成19年7月1日施行）

佐井村の村づくりに関する基本的な事項を定めるとともに、むらづくりにおける住民の権利と責任を明らかにし、住民がむらづくりの担い手として、議会や村とともに、むらづくりを推進するための基本的な事項を定めたもの。

○佐井村第4次長期総合計画

むらづくりの基本理念や村の将来像、その将来像を実現するための基本的な政策や施策の方向性を示したもので、基本計画は平成23年度から32年度までの10年間とし、毎年度見直しを行う。

基本計画 第1章 わかりやすい行政と住民参加のむらづくり

第2章 子どもとお年寄りが安全安心して暮らせるむらづくり

第3章 豊かな地域資源を生かし自然と共生した産業のむらづくり

第4章 伝統文化を守り、子どもが夢と希望持てるむらづくり

第5章 重点戦略プロジェクト

*詳しくは佐井村ホームページ「村の取組状況」等をご覧ください。



山口捷夫議員

オフサイトセンターの誘致について

有利な点をアピールするべき

村長 — 県の理解を求めて誘致に向け努力する

山口議員

新聞報道によると、村長は佐井村にオフサイトセンターを誘致する意向を示し

たが、既に風間浦村、大間町も誘致について国、県へ強く要望している。佐井村にオフサイトセンターを誘致できればどのようなメリットがあると考えているか。

経済効果があるなら誘致すべき

建設候補地は決まっているか

精一杯誘致に汗を流す

山口議員

経済効果が見込まれるのなら誘致すべきと考える。

佐井村の将来を考えると、事業等をどんどん誘致し、活性化に繋げるべきと思うがその考えは。

国の要所として位置付けられる

村長

福島第一原子力発電所の事故を教訓に、オフサイトセンターのあり方が見直しされ、地理的要因等を考えると、佐井村が適地であると想い誘致することを決めた。誘致によって、村財政に大きなメリットはないと思うが、国の要所として位置付けられ、それに伴う道路、港湾、ヘリポート、建屋等の整備、施設見学者等の経済効果を見込んでいる。

県と話をして進めたい

村長

最終決定は国が判断すると思うが、その前段には県が状況を把握し調査するとと思う。県と話をして進めていきたい。また大間原発の立地を踏まえて、日本全国から視察等で佐井村にも足を運んでくれることを期待している。

決めてはいないが候補地はある

村長

現段階で候補地を決めてはいない。しかし佐井村には、原子力発電所から五kmから三十km圏内で、施設の機能が迅速かつ的確に果たせるような立地要件を十分に満たす候補地があると考

て、色々なサイドで行動はしているつもりではあるが、近隣町村に遅れを取らないよう、精一杯誘致に汗を流すつもりである。

早く候補地を決め誘致活動をすべき

山口議員

不利にならないよう、早く候補地を決めて誘致活動するべきだと思うが。

6月定例会

山口議員
新聞報道の中で村長は、佐井村は三ヶ町村の中では、地理的に有利な点があると述べていた。国道三三八号線、川内佐井線、薬研佐井線のアクセス道路。また、大体年間の七割以上が西風という風向きが優位な立地条件であると考えるが、村長の考えは。

三ヶ町村の中で建設に優位な点は

村長

スケジュールは全くできていないが、七月に原子力規制委員会の新安全基準が示されてから、迅速に対応していきたい。

7月以降迅速に対応する

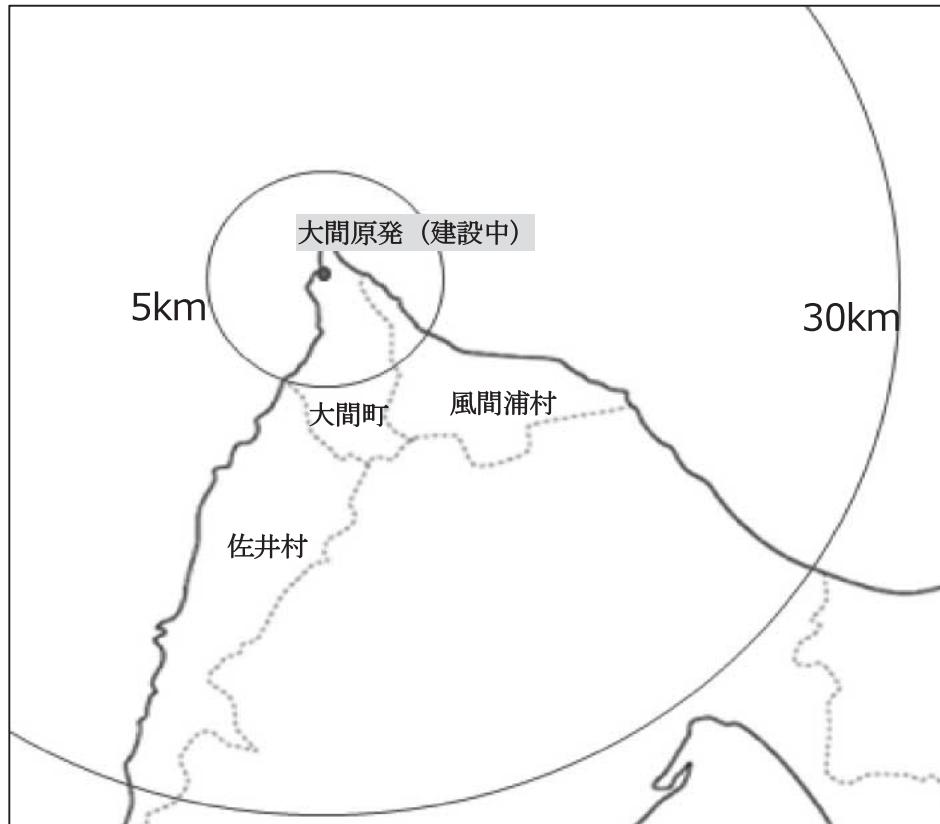
誘致に向けての具体的なスケジュール及び対応策はあるか。

具体的なスケジュールと対応策は

村長
方が一を考慮すると、オフサイトセンターは、原子力発電所の風上にあるのが一番良いと考える。そこを強調して、県の理解を求め誘致に努力する。

原子力発電所の風上にあるべき

■ 大間原発と3町村の位置 (5km、30km 圏内)



◆一口メモ 「オフサイトセンター」とは

原子力災害対策特別措置法に基づき、各原発ごとに設けられる。原発事故があった際、国や地方自治体の対策本部などが「原子力災害合同対策協議会」を組織、現地本部として住民避難や事故収束への措置などにあたる。東京電力福島第一原発事故では、5キロ離れた福島県大熊町のオフサイトセンターが通信不能と放射線量上昇で機能しなかった。この教訓から内閣府が昨年9月に設備要件に関する「ガイドライン」をまとめた。立地は原発から「5～30キロ圏内」アクセス道の複数化や、2キロ圏内に大型ヘリ離着陸用の広い面積確保が望ましいとした。

追跡質問

医師不足による 整形外科外来診療の対応は

竹内典和議員

大間病院の整形外科外来は、昨年十二月まで週一回の診療が、現在月一回医師が派遣されており、村民に迷惑がかからないよう対策をお願いして来た。その後の検討結果及び対応策は。

社会福祉協議会の福祉過疎地有償運送事業を活用する方法もある。

対応しないと**いう事か**

もう少し時間をかけ、協議したい。

もう少し時間をかけ協議する

医師不足解消は進んでいない

竹内典和議員
村としては、対応しないという事か。

他の診療科目等から公平さに欠ける

下北医療センターに要請しているが、医師不足の解消は思うように進んでいない現状である。

村長

他の診療科目等もあることから、公平さに欠けるため、村単独でのむつ総合病院までの送迎バスは難しい。

何か対策はないか**検討結果及び対応策は****竹内典和議員**

どのように検討し、村民に対しての対応策は。

竹内典和議員

私が提案したむつ総合病院までのバスの運行はあくまで一例で、佐井診療所が廃止になる時、村は住民には迷惑をかけませんと言っている。結局迷惑をかけている状況だから、何か対策は出来ないのか。

村長
十分理解している。下北医療センターにもお願いしていきたい。

竹内典和議員
医師の派遣は九月までには目途が立つようだが、時間を作りずに早急に対応して欲しい。

村長
もう少し時間をかけ、協議したい。

参考・住民福祉課長
北通り医療統合後の住民の負担軽減措置として、大間病院までの送迎バスを運行しているが、むつ総合病院整形外科外来受診のための送迎バスの運行は難しい。



月1回の整形外科外来の日は、患者でいっぱいになる「大間病院待合室」

地元に雇用の場を作り牛滝地区の活性化に繋げたい

牛滝「まだあ～る」



左から「坂井智加子さん」、代表の「船越洋子さん」、「船越光子さん」

平成23年6月11日に牛滝漁港の漁港倉庫前にオープンし、今年で3年目を迎えた「まだあ～る」は、6人で営業しています。牛滝地区には仏ヶ浦を海上から観光する観光船があり、多くの観光客が訪れます。お土産は売っていないの？何か食べる場所はないの？」という要望があったため、県の生業（なりわい）づくり事業により、ワークショップなど様々なプロセスを経て店舗をオープンしました。店内は、牛滝の海で採れた鱈や鮭、イカなどの干物のほかにも、山菜や干しシイタケ、手作りの小物類など品数豊富です。

新鮮な魚介類を心こめて手作りした商品は、素朴でありながら味わい深く、一度食べたら忘れないおいしさから、三重県からお取り寄せするリピーターもいるほどです。夢は店舗を大きくし、食堂なども展開して安定的な収入が得られれば、地元の雇用の場にもなるし、嫁対策にもつながると意欲的です。夏休みに入ってからお盆にかけて観光客で賑わい、忙しいピークを迎ますが、夢に向かって頑張る笑顔がとてもいきいきとして素敵です。商品は200円から500円前後とお手軽価格ですし、訪れるときとお気に入りの商品が見つかります。



おすすめ商品「むしり鮭」と「どんこ」

※今号より夢を持って頑張っている人をシリーズで掲載する予定です。

営業期間：5月1日～10月31日
営業時間 9:00～15:00



まだあ～るオリジナルTシャツ



夢はお店を大きくすること

- 多い日の来客数 … 100人以上になることも!
- おすすめ商品 … 牛滝産「むしり鮭」「どんこ」
- お客様の声
「安いね!」「お店が小さいね」「品物がたくさんあるね」
- 大変なことは
手作りのため、味(塩分など)を一定に保つことが難しい
(一方で個々の味付けに特徴があり、個性となつて同じ商品でも好みの味に仕上がる)

国土交通省 経済産業省へ要望書を提出

6月17日東京都

佐井村・大間町・風間浦村でつくる大間原発三ヶ町村協議会は6月17日、国土交通省、経済産業省等を訪ね、避難道路の整備について要望書を提出しました。

佐井村議会からは、川畠議長、竹内修副議長、大間原子力発電所対策特別委員会 川岸委員長、竹内典和副委員長が要望活動に参加しました。

国土交通省では、梶山副大臣と懇談し、「原子力災害発生時の避難道路となる国道279号の代替道路について、大間町からむつ市まで国直轄で新たに整備して欲しい」旨要望しました。



国土交通省にて梶山副大臣へ要望書を提出

県下町村議会議員研修会

7月11日青森市

青森市「青森市民ホール」において、標記研修会が開催され、佐井村議会からも8名参りました。

政治評論家の浅川博忠氏が「これから政局・政治はどうなる！」と題した演題で講演しました。浅川氏は、現在NHKテレビ「視点・論点」を担当。21日投開票される参議院選挙の予想や、これまで長い付き合いのある小泉元総理が辞任した理由、今後誰が総理大臣になるかなど、なかなか我々には分からぬ政治の深いところまで90分間辛口の評論は会場の参加者をひきつけていました。



～議会を傍聴しませんか～

第3回議会定例会は9月上旬開会予定です。

9月定例会では夜間議会を開催する予定ですので、みなさんの議会傍聴をお待ちしています。

議会終了後は告知端末機チャンネルでも一般質問の様子を音声放送する予定でありますので、ぜひ放送をお聞きください。

詳しくは議会だより臨時号（9月1日発行）およびサイボードでお知らせします。